

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：株式会社の場製館所における A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新による CO2 排出削減事業

排出削減事業者名：株式会社の場製館所

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社の場製館所
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	株式会社の場製館所
住所	〒271-0064 千葉県松戸市上本郷 158
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

株式会社の場製館所における A 重油ボイラから都市ガスボイラへの更新による CO2 排出削減事業

2.2 排出削減事業の目的

A 重油ボイラを都市ガスボイラに更新することにより、高効率化を実現し、CO2 削減を図ることを目的としている。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

- ① A 重油から都市ガスボイラへの更新
- ② 高効率型への更新

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

事業実施後燃料の使用量のモニタリングに以下の変更があったが変更により排出削減量算定の精度は維持されており、過剰交付に結びつくことはないといえる。

2013 年 4 月 1 日から 2014 年 2 月 28 日：削減事業計画の通り

2014 年 3 月 1 日から 2018 年 3 月 31 日：請求書の数値を標準状態に換算し、その結果から削減事業対象外の乾燥炉並びに脱臭バーナー機側の流量計による計測値を控除し、対象の蒸気ボイラによる使用量を求め、記録する。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2011年 9月 1日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年 4月 1日 ～ 2018年 3月 31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量、原単位は採用しない。

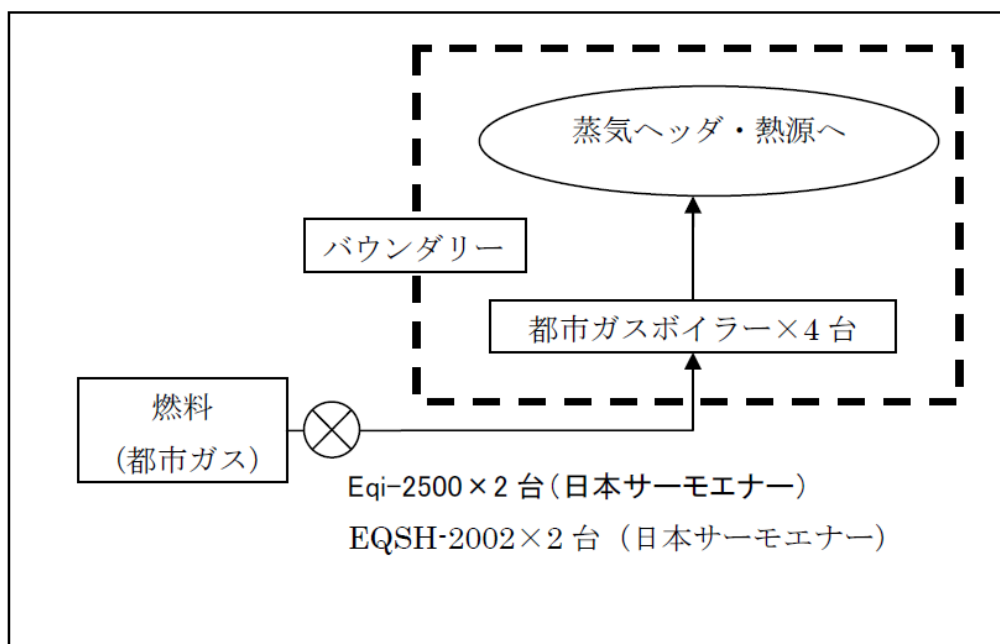
4.2.2 活動量の採用根拠

活動量、原単位は採用しない。

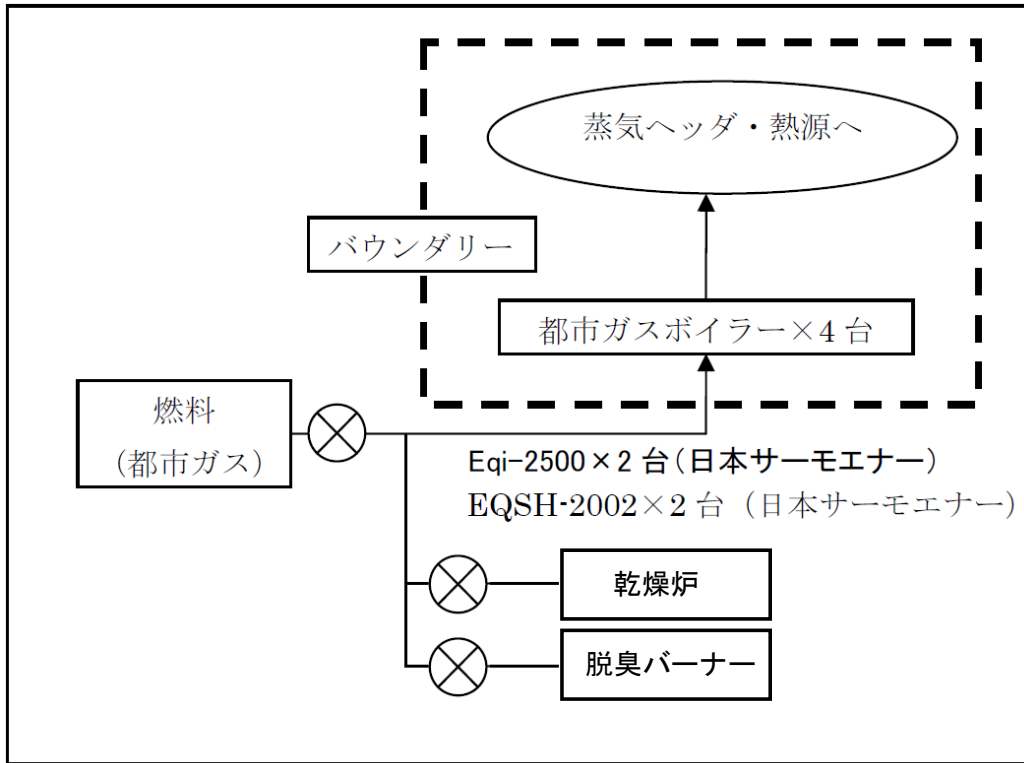
4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

更新するボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備

2014年2月28日まで (排出削減事業計画どおり)



2014年3月1日から (乾燥炉と脱臭バーナーが付加された)



5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の使用量	千 Nm3	2013 年度 : 527.8 2014 年度 : 454.3 2015 年度 : 492.5 2016 年度 : 580.0 2017 年度 : 604.7	2014 年 2 月 28 日まで : 日請求書の数値を集計し、標準状態に換算する (1.045 で割る) 2014 年 3 月 1 日以降 : 請求書の数値を標準状態に換算し、その結果から削減事業対象外の乾燥炉並びに脱臭バーナー機側の流量計による計測値を控除	2014 年 2 月 28 日まで : 変更なし 2014 年 3 月 1 日以降 : 正確に燃料使用量を決定するため。
ϵ_{Pj}	事業実施後のボイラー効率	%	86.9	カタログ値 (高位発熱量ベース)	変更なし
ϵ_{BL}	事業実施前のボイラー効率	%	83.5	カタログ値 (高位発熱量ベース)	変更なし
$HV_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/千 Nm3	2013 年度 : 44 2014 年度 : 46.4 2015 年度 : 46 2016 年度 ~2017 年度 : 45	J-クレジット制度のデフォルト値 (都市ガス)	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料の単位発熱量あたりの排出係数	tCO2/GJ	2013 年度 ~2017 年度 : 0.0513	J-クレジット制度のデフォルト値 (都市ガス)	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料の単位発熱量あたりの排出係数	tCO2/GJ	2013 年度~ ~2017 年度 : 0.0708	J-クレジット制度のデフォルト値 (A 重油)	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	527.8	44	0.0513	1,191.4
2014 年度	454.3	46.4	0.0513	1,081.3
2015 年度	492.5	46	0.0513	1,162.2
2016 年度	580.0	45	0.0513	1,338.8
2017 年度	604.7	45	0.0513	1,396.0
単位	千 Nm3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
EM _{PJ}				6,169.7

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	24,169.5	—	0.0708	1,711.2
2014 年度	21,937.0	—	0.0708	1,553.1
2015 年度	23,577.0	—	0.0708	1,669.3
2016 年度	27,160.5	—	0.0708	1,923.0
2017 年度	28,320.4	—	0.0708	2,005.1
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
EM _{BL}				8,861.7

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0
2015 年度	0			0
2016 年度	0			0
2017 年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	8,861.7
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	6,169.7
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	2,692

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
3,106.0	2,984.5	121.5

省エネルギー量（原油換算）= 121.5 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
		(実績)	(実績)	(実績)